

表 9

「部落差別」に関する考え方	合計	そう思う	どちらか そう思う	どちらか そうと 思わない	そう ない は思 わ	無 回 答
1 そっとしておけば部落差別はなくなる	1420	11.3%	26.7%	26.8%	33.2%	2.0%
2 引っ越しをする場合、差別を受けてきた地域かどうか気になる	1420	8.4%	28.5%	25.1%	36.3%	1.8%
3 差別を受けてきた地域の人びとには、なんら差別される理由はない	1420	55.6%	30.1%	7.3%	4.6%	2.3%
4 部落差別について学習するから差別はなくなる	1420	9.9%	21.9%	34.1%	31.7%	2.5%
5 今後も部落差別はなくなると思う	1420	10.4%	33.3%	31.8%	22.2%	2.3%
6 部落差別をなくすために啓発活動に力を入れるべきだ	1420	13.4%	40.5%	30.7%	12.5%	2.9%
7 部落差別などの同和問題を知らない	1420	8.2%	16.8%	21.9%	50.4%	2.7%

表 10 は、7 変数について因子分析を行った結果であり、2 因子が析出された。

表 10

部落差別についての考え方	第1因子	第2因子	共通性
1 そっとしておけば部落差別はなくなる(逆)	0.765	-0.089	0.593
4 部落差別について学習するから差別はなくなる(逆)	0.679	0.282	0.540
6 部落差別をなくすために啓発活動に力を入れるべきだ	0.536	-0.074	0.293
5 今後も部落差別はなくなると思う(逆)	-0.101	0.718	0.526
2 引っ越しをする場合、差別を受けてきた地域かどうか気になる(逆)	0.049	0.367	0.137
因子寄与率	26.9	14.869	
因子累積寄与率	26.9	41.782	
クロンバックの信頼性係数	0.684	0.404	
因子解釈	寝た子を 起こす意 識	部落忌避 反対意識	

因子抽出法: 主因子法

回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

第1因子には、「1 そっとしておけば部落差別はなくなる（逆）」、「4 部落差別について学習するから差別はなくなる（逆）」、「6 部落差別をなくすために啓発活動に力を入れるべきだ」の3変数が高い因子負荷量を示している。これらの変数は、「**寝た子を起こす意識**」因子と解釈できる。第2因子には、「5 今後も部落差別はなくなると思う（逆）」、「2 引っ越しをする場合、差別を受けてきた地域かどうか気になる（逆）」の2変数が高い因子負荷量を示している。そこで、第2因子は「**部落忌避反対意識**」因子と名付ける。

「寝た子を起こす意識」と「部落忌避反対意識」とが、別の因子となったことを押さえておこう。

尺度を構成するにあたり、クロンバックの信頼性係数を求めたところ、「寝た子を起こすな」は0.684と比較的高い数値であるが、「部落忌避反対意識」は0.404であって、尺度化において十分に高いとは言えず、今後の課題とする。

「寝た子を起こす意識」因子に高い因子負荷量を示す3変数への回答の平均値を、「**寝た子を起こす度**」尺度とする。「部落忌避反対意識」因子に高い因子負荷量を示す2変数への回答の平均値を「**部落忌避反対度**」尺度とする。「寝た子を起こす度」も「部落忌避反対度」も点数が高いほど人権意識は高いと評価できる。

6) 「障害のある人の人権」に関する考え方

表11は、「障害のある人の人権」に関する意識である7変数の度数分布である。

これら7変数を用いて、尺度化のための因子分析を行う。

因子分析を行うにあたって、変数を人権意識の低いほうから高いほうへ1から4となるように、選択肢の順序を変更する。「1 身近に住む障害のある人が虐待を受けている疑いがあると感じたら、通報することが望ましい」、「4 障害のある人が地域で暮らせるようにサポートすることが望ましい」、「5 出生前診断は「命の選別（出生前診断）」につながるから避けるべきだ」、「6 障害のある人をじろじろみたり、避けたりすることは望ましくない」については、選択肢を反対にし、「そうは思わない」1、「どちらかと言えばそうは思わない」2、「どちらかと言えばそう思う」3、「そう思う」4とする。

人権意識が低いと解釈される変数には、（逆）の文字を付している。

表 11

「障害のある人の人権」に関する考え方	合計	そう思う	どちらかと言うと 思う	どちらかと言うと 思わない	そうは思わない	無回答
1 身近に住む障害のある人が虐待を受けている疑いがあると 感じたら、 通報することが望ましい	1420	66.4%	29.6%	2.3%	0.8%	0.9%
2 障害のある人にはかかわりたくない	1420	1.3%	11.4%	38.7%	47.5%	1.1%
3 近所に障害者施設が建つのはいやだ	1420	2.7%	12.1%	36.7%	47.3%	1.2%
4 障害のある人が地域で暮らせるようにサポートすることが 望ましい	1420	50.1%	43.4%	3.1%	2.3%	1.2%
5 出生前診断は「命の選別（出生前診断）」につながるから 避けるべきだ	1420	8.3%	20.8%	40.4%	27.7%	2.8%
6 障害のある人をじろじろとみたり、避けたりすることは望 ましくない	1420	61.6%	31.2%	3.9%	2.3%	1.1%
7 普通の生活の中で、合理的配慮が進められていると感じる	1420	12.5%	44.9%	31.1%	9.4%	2.0%

表 12 は、因子分析の結果である。

表 12

障害者差別についての考え方	第1因子	共通性
2 障害のある人にはかかわりたくない（逆）	0.668	0.447
3 近所に障害者施設が建つのはいやだ（逆）	0.620	0.384
4 障害のある人が地域で暮らせるようにサポートすることが望ましい	0.492	0.242
1 身近に住む障害のある人が虐待を受けている疑いがあると 感じたら 通報することが望ましい	0.434	0.188
6 障害のある人をじろじろとみたり、避けたりすることは望ましくない	0.403	0.162
因子寄与率	28.5	
クロンバックの信頼性係数	0.654	
因子解釈	障害者包 摂意識	

因子抽出法: 主因子法

第1因子には、「2 障害のある人には関わりたくない（逆）」、「3 近所に障害者施設が建つのはいやだ（逆）」、「4 障害のある人が地域で暮らせるようにサポートすることが望ましい」、「1 身近に住む障害のある人が虐待を受けている疑いがあると感じたら通報することが望ましい」、「6 障害のある人をじろじろみたり、避けたりすることは望ましくない」の5変数が高い因子負荷量を示している。障害のある人びとが地域の中でともに生活することを支持する意識と解されることから、「**障害者包摂意識**」因子と名付ける。

クロンバックの信頼性係数は0.654であり、これら5変数によって尺度を構成することに問題ないと判断される。

これら5変数への回答の点数の平均値を「**障害者包摂度**」尺度とする。点数は1から4の範囲を取る。

7) 「外国籍の人の人権」に関する考え方

表13は、外国籍の人の人権意識に関する8変数の度数分布である。

表13

「外国籍の人の人権」に関する考え方	合計	そう思う	どちらかそう思う	どちらかそうわない	そうは思わない	無回答
1 近所に外国籍の人が多く住んでいると治安が心配である	1420	7.3%	29.4%	34.9%	27.1%	1.3%
2 外国籍という理由でアパートを貸してもらえないのは仕方がない	1420	1.5%	14.6%	42.6%	39.8%	1.5%
3 外国籍の人が差別的な言葉や行動を受けることは許せない	1420	45.8%	40.8%	6.7%	4.8%	1.9%
4 職場に外国籍の人が増えるのは好ましいと思う	1420	24.3%	45.7%	23.2%	4.2%	2.6%
5 ヘイトスピーチも言論の自由だと思う	1420	5.8%	13.7%	36.1%	42.0%	2.3%
6 特定の国の国籍（出身国）に対し固定観念や偏見があるかもしれない	1420	16.3%	50.3%	19.3%	12.3%	1.9%
7 外国籍の人の国の歴史や文化を尊重すべきだ	1420	42.6%	45.3%	8.0%	2.5%	1.7%
8 日本に住んでいれば日本の歴史や文化を尊重すべきだ	1420	26.3%	50.2%	18.0%	4.2%	1.4%

これら8変数を用いて因子分析を行う。

因子分析を行うにあたって、人権意識が低いほど点数が低く、高いほど点数が高くなるように選択肢を並び替える。

「3 外国籍の人が差別的な言葉や行動を受けることは許せない」、「4 職場に外国籍の人が増えるのは好ましいと思う」、「7 外国籍の人の国の歴史や文化を尊重すべきだ」については、「そうは思わない」1、「どちらかと言えばそうは思わない」2、「どちらかと

言えばそう思う」3, 「そう思う」4とする。また、人権意識の低さを示す変数には、変数の後ろに（逆）を付す。

表 14 は、因子分析の結果である。

表 14

外国籍の人の人権に関する考え方	第1因子	第2因子	共通性
1 近所に外国籍の人が多く住んでいると治安が心配である(逆)	0.793	0.146	0.650
2 外国籍という理由でアパートを貸してもらえないのは仕方がない(逆)	0.659	0.316	0.534
7 外国籍の人の国の歴史や文化を尊重すべきだ	0.145	0.537	0.309
4 職場に外国籍の人が増えるのは好ましいと思う	0.287	0.513	0.345
3 外国籍の人が差別的な言葉や行動を受けることは許せない	0.106	0.502	0.263
因子寄与率	23.6	18.5	
因子累積寄与率	23.6	42.0	
クロンバックの信頼性係数	0.715	0.558	
因子解釈	外国籍包 摂意識	外国籍尊 重意識	

因子抽出法: 主因子法

回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

因子分析の結果、第1因子には、「1 近所に外国籍の人が多く住んでいると治安が心配である(逆)」、「2 外国籍という理由でアパートを貸してもらえないのは仕方がない(逆)」の2変数が高い因子負荷量を示している。これらは、外国籍の人びとを地域住民として受け入れることを支持する意識であると解されることから、「**外国籍包摂意識**」因子とする。

第2因子には、「7 外国籍の人の国の歴史や文化を尊重すべきだ」、「4 職場に外国籍の人が増えるのは好ましい」、「3 外国籍の人が差別的な言葉や行動を受けることは許せない」の3変数が高い因子負荷量を示している。これらは、外国籍の人びとの多様性を尊重する意識と解されることから、「**外国籍尊重意識**」因子と名付ける。

「外国籍包摂意識」と「外国籍尊重意識」とが、別の因子になったことを押させておこう。

クロンバックの信頼性係数は、「外国籍包摂意識」因子は0.715であり、尺度化において問題ないと判断できる。「外国籍尊重意識」因子は0.558で十分に高いとは言えないが、今回はこのまま尺度化することとする。

「外国籍包摂意識」因子に高い因子負荷量を示している変数への回答の点数の平均値を「**外国籍包摂度**」尺度とする。また、「外国籍尊重意識」因子に高い因子負荷量を示している変数への回答の点数の平均値を「**外国籍尊重度**」尺度とする。いずれも、平均値は1から4に分布する。